

1

解答例のページへ

実数 $m > 1$ について、座標平面上に 3 点 $A(1, 0)$, $B(m, 0)$, $C(m^2, 0)$ をとる。点 $P(x, y)$ は $AP : CP = 1 : m$ を満たしながら動くとする。次の問いに答えよ。

- (1) 点 $P(x, y)$ の軌跡を求めよ。
- (2) 次の等式を証明せよ。 $\overrightarrow{PB} \cdot \overrightarrow{PC} = m(m+1)(m-x)$
- (3) $y \neq 0$ とする。点 $P(x, y)$ に対して $\angle APB = \angle BPC$ が成り立つことを示せ。

2

解答例のページへ

実数 $a > 0$ に対し、座標平面上の点 $P(a, 0)$ をとる。曲線 $y = \frac{1}{3}x^{\frac{3}{2}}$ ($x \geq 0$) を C とする。点 Q が曲線 C 上を動くとき、 PQ^2 の最小値を与える点 Q の x 座標を $F(a)$ とし、 PQ^2 の最小値を $G(a)$ とする。次の問いに答えよ。

- (1) $F(a)$ を求めよ。
- (2) $\lim_{a \rightarrow +0} \frac{F(a) - a}{a^2}$ を求めよ。
- (3) $\lim_{a \rightarrow +0} \frac{G(a)}{a^3}$ を求めよ。

3

解答例のページへ

座標平面上の $0 \leq x \leq 2\log 2$ の範囲において、曲線 $y = e^x$ と曲線 $y = 2 - e^{2x}$ 、直線 $x = 2\log 2$ で囲まれた図形を D とする。図形 D を x 軸のまわりに 1 回転してできる回転体の体積 V を求めよ。

4

解答例のページへ

次の式によって与えられる数列 $\{a_n\}$, $\{b_n\}$, $\{x_n\}$ がある。

$$a_n = \sum_{k=1}^n k, \quad b_n = \sum_{k=1}^n k^2, \quad x_n = \sum_{k=1}^n k a_k$$

次の問いに答えよ。

- (1) $\frac{b_n}{a_n}$ が整数となる n をすべて求めよ。
- (2) $x_n = \frac{1}{2}(a_n^2 + b_n)$ を示せ。
- (3) $\frac{x_n}{a_n}$ が整数となる n をすべて求めよ。

1

問題のページへ

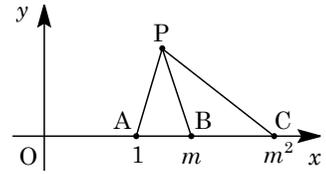
- (1) $m > 1$ のとき, 3 点 $A(1, 0)$, $B(m, 0)$, $C(m^2, 0)$ に
対して, 点 $P(x, y)$ が $AP:CP=1:m$ を満たすとき,

$CP = mAP$ から $CP^2 = m^2AP^2$ となり,

$$(x - m^2)^2 + y^2 = m^2\{(x - 1)^2 + y^2\}$$

まとめると, $(m^2 - 1)x^2 + (m^2 - 1)y^2 = m^2(m^2 - 1)$ となり, 点 P の軌跡は,

$$\text{円} : x^2 + y^2 = m^2 \cdots \cdots (*)$$



- (2) $\overrightarrow{PB} = (m - x, -y)$, $\overrightarrow{PC} = (m^2 - x, -y)$ より, (*) を適用すると,

$$\begin{aligned} \overrightarrow{PB} \cdot \overrightarrow{PC} &= (m - x)(m^2 - x) + y^2 = m^3 - (m^2 + m)x + x^2 + y^2 \\ &= m^3 - (m^2 + m)x + m^2 = m\{m^2 - (m + 1)x + m\} \\ &= m\{m^2 - (x - 1)m - x\} = m(m + 1)(m - x) \end{aligned}$$

- (3) $\overrightarrow{PA} = (1 - x, -y)$ より, (*) を適用すると,

$$\begin{aligned} \overrightarrow{PA} \cdot \overrightarrow{PB} &= (1 - x)(m - x) + y^2 = m - (m + 1)x + x^2 + y^2 \\ &= m - (m + 1)x + m^2 = m^2 - (x - 1)m - x = (m + 1)(m - x) \end{aligned}$$

これより $\overrightarrow{PB} \cdot \overrightarrow{PC} = m\overrightarrow{PA} \cdot \overrightarrow{PB}$ となり, また(1)から $|\overrightarrow{PC}| = m|\overrightarrow{PA}|$ なので,

$$\cos \angle BPC = \frac{\overrightarrow{PB} \cdot \overrightarrow{PC}}{|\overrightarrow{PB}| |\overrightarrow{PC}|} = \frac{m\overrightarrow{PA} \cdot \overrightarrow{PB}}{m|\overrightarrow{PB}| |\overrightarrow{PA}|} = \frac{\overrightarrow{PA} \cdot \overrightarrow{PB}}{|\overrightarrow{PB}| |\overrightarrow{PA}|} = \cos \angle APB$$

したがって, $\angle APB = \angle BPC$ が成り立つ。

[コメント]

平面ベクトルと軌跡を組み合わせた基本的な問題です。なお, 三角形の内角の二等分線の定理がベースになっています。

2

問題のページへ

(1) 点 $P(a, 0)$ ($a > 0$) に対し、曲線 $C: y = \frac{1}{3}x^{\frac{3}{2}}$ ($x \geq 0$) 上

の点 $Q(t, \frac{1}{3}t^{\frac{3}{2}})$ をとると、 $PQ^2 = (t-a)^2 + \frac{1}{9}t^3$ である。

ここで、 $t \geq 0$ において、 $PQ^2 = f(t)$ とおくと、

$$f'(t) = 2(t-a) + \frac{1}{3}t^2 = \frac{1}{3}(t^2 + 6t - 6a)$$

$f'(t) = 0$ とおくと、 $t \geq 0$ から $t = -3 + \sqrt{9+6a}$ となる。

これより、 $f(t)$ の増減は右表のようになり、 $PQ^2 = f(t)$ は $t = -3 + \sqrt{9+6a}$ において最小値をとる。

t	0	...	$-3 + \sqrt{9+6a}$...
$f'(t)$		-	0	+
$f(t)$		↘		↗

よって、 $F(a) = -3 + \sqrt{9+6a}$ である。

(2)
$$\frac{F(a)-a}{a^2} = \frac{-a-3+\sqrt{9+6a}}{a^2} = \frac{(-a-3)^2-(9+6a)}{a^2(-a-3-\sqrt{9+6a})} = \frac{1}{-a-3-\sqrt{9+6a}}$$

これより、
$$\lim_{a \rightarrow +0} \frac{F(a)-a}{a^2} = \lim_{a \rightarrow +0} \frac{1}{-a-3-\sqrt{9+6a}} = \frac{1}{-3-\sqrt{9}} = -\frac{1}{6} \dots\dots\dots \textcircled{1}$$

(3) PQ^2 の最小値を $G(a)$ とおくと、 $G(a) = \{F(a)-a\}^2 + \frac{1}{9}\{F(a)\}^3$ となり、

$$\frac{G(a)}{a^3} = \frac{\{F(a)-a\}^2}{a^3} + \frac{\{F(a)\}^3}{9a^3} = a \cdot \left\{ \frac{F(a)-a}{a^2} \right\}^2 + \frac{1}{9} \left\{ \frac{F(a)}{a} \right\}^3 \dots\dots\dots \textcircled{2}$$

ここで、
$$\frac{F(a)}{a} = \frac{-3+\sqrt{9+6a}}{a} = \frac{(-3)^2-(9+6a)}{a(-3-\sqrt{9+6a})} = \frac{-6}{-3-\sqrt{9+6a}}$$
 となり、

$$\lim_{a \rightarrow +0} \frac{F(a)}{a} = \frac{-6}{-3-\sqrt{9}} = 1 \dots\dots\dots \textcircled{3}$$

①③を②に適用すると、
$$\lim_{a \rightarrow +0} \frac{G(a)}{a^3} = 0 \cdot \left(-\frac{1}{6}\right)^2 + \frac{1}{9} \cdot 1^3 = \frac{1}{9}$$
 である。

[コメント]

微分法と関数の極限の融合問題です。(2)を誘導として(3)の結果が導けます。なお、(1)は Q における接線と線分 PQ が直交するという条件を利用する手もあります。

3

2 曲線 $y = e^x \cdots \cdots \textcircled{1}$, $y = 2 - e^{2x} \cdots \cdots \textcircled{2}$ と直線 $x = 2\log 2$ で囲まれた図形 D を x 軸のまわりに 1 回転してできる回転体の体積を V とする。

まず、曲線②と x 軸の交点は、 $2 - e^{2x} = 0$ から $e^{2x} = 2$, すなわち $x = \frac{1}{2}\log 2$ となる。

また、曲線②を x 軸対称した曲線 $y = -2 + e^{2x} \cdots \cdots \textcircled{3}$ と曲線①の交点は、 $e^x = -2 + e^{2x}$ から $e^{2x} - e^x - 2 = 0$ となり、

$$(e^x + 1)(e^x - 2) = 0$$

$e^x + 1 > 0$ より、 $e^x = 2$ から $x = \log 2$ となる。

ここで、 $I_1 = \int_0^{\log 2} (e^x)^2 dx - \int_0^{\frac{1}{2}\log 2} (2 - e^{2x})^2 dx$, $I_2 = \int_{\log 2}^{2\log 2} (2 - e^{2x})^2 dx$ とおくと、 $V = (I_1 + I_2)\pi$ となり、

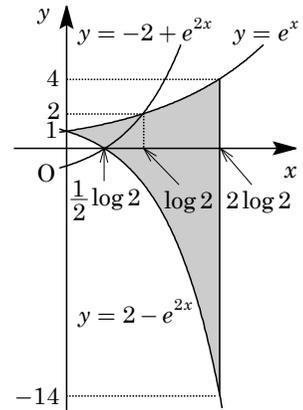
$$\begin{aligned} I_1 &= \int_0^{\log 2} e^{2x} dx - \int_0^{\frac{1}{2}\log 2} (4 - 4e^{2x} + e^{4x}) dx \\ &= \left[\frac{1}{2}e^{2x} \right]_0^{\log 2} - \left[4x - 2e^{2x} + \frac{1}{4}e^{4x} \right]_0^{\frac{1}{2}\log 2} \\ &= \frac{1}{2}(4-1) - 4 \cdot \frac{1}{2}\log 2 + 2(2-1) - \frac{1}{4}(4-1) = \frac{11}{4} - 2\log 2 \\ I_2 &= \int_{\log 2}^{2\log 2} (4 - 4e^{2x} + e^{4x}) dx = \left[4x - 2e^{2x} + \frac{1}{4}e^{4x} \right]_{\log 2}^{2\log 2} \\ &= 4 \cdot \log 2 - 2(16-4) + \frac{1}{4}(256-16) = 36 + 4\log 2 \end{aligned}$$

$$\text{以上より、} V = (I_1 + I_2)\pi = \left(\frac{11}{4} - 2\log 2 + 36 + 4\log 2 \right)\pi = \left(\frac{155}{4} + 2\log 2 \right)\pi$$

[コメント]

回転体の体積計算の問題です。曲線②が x 軸の両側に存在するため、この曲線を x 軸対称した曲線③を考え、曲線①と②の位置関係を把握しています。

問題のページへ



4

問題のページへ

$$(1) a_n = \sum_{k=1}^n k = \frac{1}{2}n(n+1), b_n = \sum_{k=1}^n k^2 = \frac{1}{6}n(n+1)(2n+1) \text{ より, } \frac{b_n}{a_n} = \frac{2n+1}{3}$$

m を整数として、条件より $\frac{b_n}{a_n} = m$ とおくと、 $2n+1 = 3m \cdots \cdots \textcircled{1}$

①を満たす (n, m) として $(n, m) = (1, 1)$ があり、 $2 \cdot 1 + 1 = 3 \cdot 1$ から、

$$2(n-1) = 3(m-1)$$

2 と 3 は互いに素なので、 i を整数として、 $(n-1, m-1) = (3i, 2i)$ となり、

$$n = 3i + 1, m = 2i + 1 \cdots \cdots \textcircled{2}$$

なお、 $n \geq 1$ から $3i + 1 \geq 1$ となり、 i は 0 以上の整数である。

$$(2) x_n = \sum_{k=1}^n k a_k = \frac{1}{2} \sum_{k=1}^n k^2 (k+1) = \frac{1}{2} \sum_{k=1}^n (k^3 + k^2) = \frac{1}{2} \sum_{k=1}^n k^3 + \frac{1}{2} \sum_{k=1}^n k^2$$

$$= \frac{1}{2} \left\{ \frac{1}{2} n(n+1) \right\}^2 + \frac{1}{2} b_n = \frac{1}{2} a_n^2 + \frac{1}{2} b_n = \frac{1}{2} (a_n^2 + b_n)$$

$$(3) l \text{ を整数として、条件より } \frac{x_n}{a_n} = l \text{ とおくと、(2) から } \frac{1}{2} \left(a_n + \frac{b_n}{a_n} \right) = l \cdots \cdots \textcircled{3}$$

さて、 a_n は整数なので、 $\frac{b_n}{a_n}$ は整数であることが必要で、②から $n = 3i + 1$ より、

$$a_n = \frac{1}{2}(3i+1)(3i+2), \frac{b_n}{a_n} = m = 2i+1$$

すると、 $\frac{x_n}{a_n}$ が整数である条件は、③より $\frac{1}{2}(3i+1)(3i+2) + (2i+1) = 2l$ となり、

$$9i^2 + 13i + 4 = 4l, (i+1)(9i+4) = 4l \cdots \cdots \textcircled{4}$$

ここで、以下 mod 4 で記すと、 $4l \equiv 0$ であり、

- $i \equiv 0$ のとき $(i+1)(9i+4) \equiv 1 \cdot 4 \equiv 0$
- $i \equiv 1$ のとき $(i+1)(9i+4) \equiv 2 \cdot 13 \equiv 2 \cdot 1 \equiv 2$
- $i \equiv 2$ のとき $(i+1)(9i+4) \equiv 3 \cdot 22 \equiv 3 \cdot 2 \equiv 6 \equiv 2$
- $i \equiv 3$ のとき $(i+1)(9i+4) \equiv 4 \cdot 31 \equiv 0 \cdot 3 \equiv 0$

すると、④は $i = 4j$ または $i = 4j + 3$ のとき成り立ち、このとき、

$$n = 3 \cdot 4j + 1 = 12j + 1, n = 3(4j + 3) + 1 = 12j + 10$$

なお、 $i \geq 0$ から、ともに $j \geq 0$ となり、 j は 0 以上の整数である。

[コメント]

数列の和と整数の融合問題です。(3)はいろいろな方法が考えられますが、解答例は(1)と(2)の結果を利用する方法で記しています。